

## 採用に関する情報

- 採用方法 採用方法は、国家公務員採用総合職（院卒者試験及び大卒程度試験）合格者から採用します。  
また、業績や経歴に基づいた選考による採用場合があります。



▲消防研究センター HP

<https://nrifd.fdma.go.jp/recruit/index.html>

- 採用区分 ●国家公務員採用総合職試験のうち、次の試験区分に合格した者からの採用になります。  
〈院卒者試験〉  
デジタル、工学、数理科学・物理・地球科学、化学・生物・薬学、農業科学・水産、農業農村工学、森林・自然環境  
〈大卒程度試験〉  
デジタル、工学、数理科学・物理・地球科学、化学・生物・薬学、農業科学・水産、農業農村工学、森林・自然環境

- 勤務地 〒182-8508  
東京都調布市深大寺東町4-35-3 総務省消防庁消防大学校消防研究センター  
※他府県には支所等はありません。

- 待遇等 [給 与] 研究職俸給表の適用を受ける国家公務員で、学歴、経歴等を勘案して決定  
[勤務時間] 7時間45分/日(週38.75時間)  
[休 暇] 週休2日(土・日)、年20日の年次休暇、特別休暇(夏季、忌引き等)、病気休暇 等  
[ワーク・ライフ・バランス(仕事と家庭生活の両立)支援制度] 育児休業制度 等

- 施設見学について 研究内容の紹介、研究環境や施設の見学を随時実施しております。お気軽にお問い合わせください。

- 問合せ先 消防研究センター 細川直史（ほそかわ まさふみ）  
電話 0422-44-8331(代表) メール [saiyou2024@fri.go.jp](mailto:saiyou2024@fri.go.jp)



総務省消防庁 消防研究センター  
〒182-8508 東京都調布市深大寺東町4-35-3  
TEL:0422-44-8331

National Research Institute of Fire and Disaster  
4-35-3 Jindaiji-higashi-machi, Chofu, Tokyo, 182-8508, JAPAN  
TEL: +81-422-44-8331  
<https://nrifd.fdma.go.jp/>

2024年3月作成

# 総務省 消防庁 消防研究センター

National Research Institute of Fire and Disaster

## 研究官採用案内



科学技術で火災予防  
数値流体力学（CFD）による火災現象の解明



危険物施設の安全性向上のために  
石油タンクの振動台実験



災害対応の最前線で  
災害対策本部での技術支援



消火技術で大火災を鎮圧  
石油タンク火災の消火技術を研究



災害現場で消防隊員の安全を確保  
土砂災害現場での技術支援



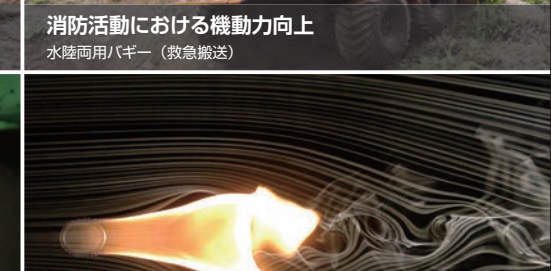
消防活動における機動力向上  
水陸両用バギー（救急搬送）



火災の芽を摘んで安全安心な社会へ  
火災原因調査の技術支援



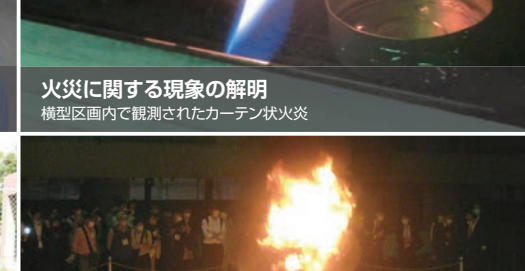
火災に関する現象の解明  
機型区画内で観測されたカーテン状火災



火災に関する現象の解明  
炎の風下に出来る渦の可視化



研究成果で救急活動を高度化  
バンク対応タイヤをメーカーと共同開発し、商品化



火災現象を分かり易く伝える  
一般公開における軽油の燃焼実験の紹介



消火活動における安全のために  
噴霧放水時の放水シミュレーションと放水実験との比較

消防の技術研究を極めて、  
社会の安全に直接貢献する研究官の仲間を募集中!

## 消防研究センターの業務

# 社会の安全に 直接貢献する研究官の仕事

消防防災の技術研究を行い、その成果を消防や社会に役立てます。

## 研究開発

消防防災に関する基盤から  
応用にわたる**研究開発**を行います。



泡消火の実験



市街地火災延焼シミュレーション

## 技術支援

専門知識や研究成果を活用し、  
消防職員などへ**技術支援**を行います。



産業廃棄物中間処理場火災での消火の技術支援



土砂災害救助現場での安全管理に係る  
助言と技術支援

## 情報発信

国際会議への参加をはじめ、学会、  
論文誌での**研究発表**を行います。

消防防災関係者などを対象とした会議での講演で、  
研究や調査で得られた知見を発表し、連携を構築します。



全国消防技術者会議



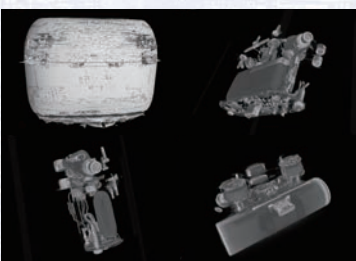
一般公開

## 原因調査

火災、危険物流出事故の**原因調査**を、  
火災調査官とともに取り組みます。



火災原因調査のための静電気の測定



X線CT撮影装置で撮影した焼損物

## 研究分野の例

様々な分野出身の研究官が消防防災活動の現場を支援する研究開発を行っています。

大学での学部・学科 **理学**

研究分野  
**土砂災害**

研究テーマ  
ドローンなどを活用した測量手法を用いて、斜面災害現場で救助活動にあたる消防隊員の二次崩落による被害を防止するための研究を行っています。

大学での学部・学科 **電気**

研究分野  
**電気・静電気火災**

研究テーマ  
電気・静電気に起因する火災の原因究明率向上にむけた手法の研究開発を、消防が行う原因調査の技術支援とともに進めています。

大学での学部・学科 **建築**

研究分野  
**火災予防、地震火災**

研究テーマ  
社会的要素に着目した火災事例の調査や分析、少子高齢化社会における火災を将来推計する研究を行っています。

大学での学部・学科 **化学**

研究分野  
**消火、火災原因調査**

研究テーマ  
消防が行なう火災原因調査における出火原因の究明率向上に向けて、火災現場の残遺物からの原因物質を特定する研究を行っています。

大学での学部・学科 **機械**

研究分野  
**火災、数値流体力学**

研究テーマ  
火災が起こった建物内の煙や熱の状況を明らかにするために、数値流体力学を用いた火災シミュレーションを活用することで、火災性状を分析・解明する研究を行っています。

大学での学部・学科 **情報工学**

研究分野  
**市街地火災対策**

研究テーマ  
市街地火災延焼シミュレーションを用いた都市の火災リスクと消防力の効果を評価する研究を行っています。

大学での学部・学科 **地震工学  
地球科学**

研究分野  
**石油タンク防災**

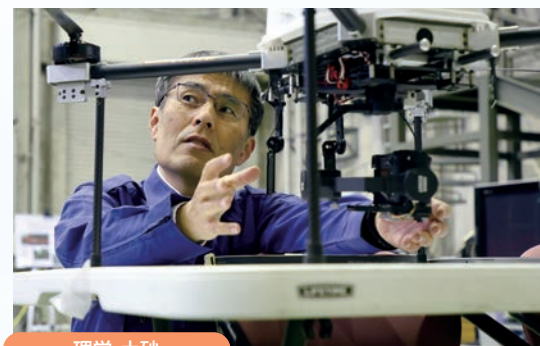
研究テーマ  
石油コンビナートにあるような大型石油タンクの地震被害予測のため、石油コンビナートにおける強震観測なども行いながら、入力地震動予測手法、石油タンクの地震応答評価手法、被害予測システムの研究・開発を行っています。

大学での学部・学科 **建築**

研究分野  
**救急**

研究テーマ  
救急業務の課題解決に向けた、救急隊の最適配置、救急隊向け翻訳アプリ、救急車等の性能向上のための研究を行っています。

## 研究官インタビュー



理学・土砂

室長／首席研究官 新井場 公徳

平成10年採用(国家1種・砂防職)。地震等災害研究室で崖が崩れるときの前兆の検知や土砂災害への対応を安全に行うための情報収集と分析に関する研究をしています。

消防研で研究を始めたのはまったくの偶然で、就職で悩んでいるところに、友人の紹介で応募したことがきっかけでした。現在は、主に土砂災害の捜索救助活動の安全性向上に取り組んでおり、現場からのニーズに基づいた実践的な研究やアドバイスも行っています。災害現場から「アドバイスが役立った」という声を聞いた時が最もやりがいを感じます。職場では、室長という立場もあり、研究員がリラックスできるための環境づくりを意識するようにしています。

消防研は研究所でありながら災害現場に近く、これがやりがいにも大きくつながります。

安全や防災に興味のある学生の皆さんにおすすめの研究機関です。

現場の声が、研究官としての  
やりがいになります



▲インタビュー動画



土木工学・構造工学

研究官 吉田 祐一

令和元年採用(選考採用)。地震動による石油タンクの底板浮き上がり挙動を精度よく計算する手法を開発するための研究を行っています。

大学院修了後は重工メーカーでLNGタンクの設計をしていました。災害時にタンクの損傷が甚大な被害につながるにもかかわらず、その分野の専門家がいなかった中、タンクの耐震基準の策定に関わりたいと考え、研究官を志望しました。現在は地震動による液体貯蔵タンクの底板浮き上がりに関する研究を行っています。消防研究センターに転職後、この分野で博士号も取得しました。

研究成果を、国際会議などで発表した時などはとてもやりがいを感じますが、それ以上に嬉しかったのは自分の研究の必要性や重要性を現場の消防官に理解してもらった時でした。

消防研究センターで研究に励んでみませんか? 切磋琢磨できる仲間を待っています。

災害時、大きな被害を防ぐ重要な  
分野の研究をしています



▲インタビュー動画